

## 全身麻酔で手術を受ける患者への不安軽減の援助についての文献検討

田村維規<sup>1)</sup>、渡邊千春<sup>1)</sup>

1) 新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科

【背景・目的】全身麻酔下において手術を行った件数は、年々増加しており 2014 年時点において約 23.5 万件である（厚生労働省）。この件数は、診断・治療技術の進歩により手術が必要となる患者自体の増加、低侵襲手術の適応範囲の拡大等により今後も増加が見込まれている。だが、全身麻酔で手術を受けることに対して、患者は、目が覚めないのではないか、眠っている間に死んでしまうのではないかなどの不安があることが明らかにされている（栗原ら 2007）。また、手術直前になると、これでよかったのかという不安、術後の身体の変化や日常生活の変化を乗り越えていけるかという不安などがある（村川 2013）。このような不安を抱いたまま手術に臨むことは、患者にとって不快な感情であるだけでなく、術中・後のバイタルサインの変動、術後の疼痛の増強、不眠やせん妄の発症といったリスクを高める。つまり、全身麻酔で手術を受ける患者に対する術前からの不安軽減の援助は周術期看護として非常に重要である。

だが、このような患者に対する不安軽減の援助は、各病院や施設での実践報告がなされているのみである。そのため、これらを体系的に纏めた研究は少ない。以上のことから、本研究は、全身麻酔下で手術を受ける患者への不安軽減の援助の目的と実際を明らかにすることを目的とする。これにより、不安軽減を図るための効果的な援助について示唆を得ることができると考える。

### 【方法】

1. 研究デザイン 文献研究
2. 研究対象

医学中央雑誌の web 版を用いて、検索キーワードを「術前」、「不安」、「軽減」で AND 検索した（2020 年 7 月 20 日アクセス）。対象期間は過去 10 年間の看護文献で、論文種類は、原著論文かつ症例報告とした。その結果 42 件抽出された。これらの文献を概観したところ、小児や精神疾患を抱える者を対象としたものがあつたため、それらを除外した結果、最終的に 13 件となった。

3. データ収集および分析方法

各文献を熟読した上で、全身麻酔下で手術を受ける患者への不安軽減の援助や取り組みについて記述されている箇所を抽出した。この内容を、どのような目的で行っているのかという視点で、グループ化した。また、目的毎に実際に行われた方法や手段を整理し、考察した。

なお、本研究は文献研究であるため、出典を明示し、著作権を侵害しないよう配慮した。また、関連する利益相反

（COI : Conflicts of Interest）はない。

【結果】全身麻酔で手術を受ける患者への不安軽減の援助について、3 つの目的に分類された。目的は、【術前から術後の経過・状態を理解してもらうための方法】、【手術室の環境のイメージ化を図る方法】、【手術そのものに対する不安や恐怖の軽減を図るための方法】となった。以下、各目的について行われている援助や取り組みについて説明する。

1. 術前から術後の経過・状態を理解してもらうための方法

患者が、術前から術後の経過や術後の容姿をイメージし、安心して手術に臨むために行われていた。また、術後の早期離床の必要性、合併症の予防行動など患者自身に主体的に取り組む内容についても説明することで、コーピングを高める関わりをしていた。主な手段としては、口頭による説明、手術室見学、動画と写真入りパンフレットを用いた説明が行われていた。

2. 手術室環境のイメージ化を図るための方法

通常の病棟とは異なる環境である手術室とはどのような場所であるのか、自身に装着される機器・モニター類にはどのようなものがあるのかをイメージし、安心してもらうために行われていた。主な手段としては、写真を用いたパンフレット、手術室見学、術後体験が行われていた。だが、パンフレットだけでは、手術室の様子がイメージしにくいとの指摘もあった。手術見学や術後体験は、希望者のみ行っていた。

3. 手術そのものに対する不安や恐怖の軽減を図るための方法

手術経験の有無や術式によっても患者の不安は異なることから、それらの背景を考慮したパンフレットの説明を行っていた。また、手術室に入室し、高まる不安に対してタッチングや声かけを行っていた。

【考察】全身麻酔で手術を受ける患者は、今まで経験したことのない特殊な状況や環境下に置かれることに関連した不安を強く抱いている。そのため、手術によって自分がどのような状態・状況になるのか、手術室とはどのような場所であるかについてイメージを持てるよう援助することが重要である。手段として、文章よりも、動画や写真、実際の手術室を見学するといった援助が効果的である。だが、患者によっては具体的なイメージを持つことにより不安が増強することも考えられる。病棟や術前訪問、麻酔医による術前診察での様子について情報を共有し、適応について検討・判断していく必要がある。

【結論】全身麻酔で手術を受ける患者への不安軽減の援助として 3 つの目的で実施されていた。自身の経過や手術室の環境に対するイメージを持つことが重要な課題であるが、個々に応じた対応も検討する必要がある。